

## 第6回紫電改展示館整備検討委員会の開催結果

1 委員会の名称 紫電改展示館整備検討委員会

2 開催日時 令和6年10月7日（月曜日）14時00分から15時30分まで

3 開催場所 いよてつ会館4階会議室

4 出席者 委員6名（WEB参加含む）、事務局8名、設計業者1名（WEB参加）

5 審議事項（議事）

- (1) 新しい展示館の計画（最終）について
- (2) 意見交換

6 審議の内容

議事（1）新しい展示館の計画（最終）について

○事務局から前回の指摘事項について説明した。

- ・建屋入口が駐車場から4m程度高い位置に計画されていることを受け、高齢の方や車椅子の方も利用しやすいよう階段やスロープを利用せずに施設を訪れることが可能となるよう、建屋の北側計画を検討するようご意見があり、外構計画を一部見直した。

○遠藤克彦建築研究所から計画の案について概要を説明した。

- ・外構計画について、階段やスロープを利用せず、できるだけ平坦な動線を新たに計画した。新設の駐車場と建屋を結ぶメインの動線は、前回から変更なく階段やスロープを使用する計画としているが、北側広場付近に新しく車寄せを新設し、車寄せから建屋まで、できるだけ高低差の少ない動線計画を追加した。この車寄せは、駐車場としてではなく、乗り降りスペースとしての利用を考えている。
- ・本展示館の設計コンセプトとして、「紫電改がかつて飛んでいた空、引き揚げられた実機、発見場所となった久良湾、これらを同時に見せること」を大切に計画した。
- ・紫電改と恵まれたロケーションの関係を、建物、展示、ランドスケープの計画に落とし込み、愛媛の地で統合されることを目指した。
- ・建物は三角形の形状をしており、周囲に3つのエリアをつくる。東側は、実機と久良湾を同時に眺められるよう植栽を管理し、新しい展示館に魅力を最大限に引き出す空間とする。西側は来館者を迎える空間として、気持ちを高める空間を目指す。北側広場は、小学生の課外活動や昼食の場となるとともに、奥のエリアへつながる活動の起点として広場空間を計画している。
- ・展示計画として、入口周辺は、建物、展示の導入として、景色や紫電改を眺めながら見学への気持ちを高める展示計画とする。紫電改設置エリアには、素晴らしいロケーションを生かして、空、海と実機を見せる計画とする。実機の後ろでは概要映像の展示を行い全体像をつかむ計画とする。展示室では、紫電改にまつわる「もの」「こと」を知り理解を深める場所を目指す。展示室を出た後は、実機設置エリアに戻り、来館者の方々に思いをつづって頂くことで、恒久平和を考えるきっかけとなればと考えている。
- ・2階に入口を設け、1階に紫電改の設置エリアを設ける。建物に入ると空、海、実機が同時に見られる空間づくりとなっている。様々な角度から紫電改を見ることが出来る計画としている。1階フロアでは、360度好きな方向から実機を間近に見ることが出来る計画としている。展示エリアに面して展示室と多目的室を設けている。多目的室には、プロジェクタやスクリーン、音響設備を設け、展示や講演会などの用途に対

応できるよう計画している。管内を一通り見た後、メッセージカウンターで思いをつづって頂く計画としている。ハガキや手紙として文字にすることで、自分なりの平和を考えていただくきっかけとなると考えている。実機前のガラス面には、引き揚げ場所を示すグラフィック表示を行い、特定の場所に立つと風景と重なり合うような計画とすることで、建物が引き揚げエリアを向いて設置されているという全体計画の意図を可視化する仕組みとしている。2階の吹き抜けに面した手摺の一部には、先ほどのハガキを掲示することを考えており、ここでは他の来館者がつづったメッセージを読み、誰かは誰かの大切な人であることに気づき、平和について考えていただく仕組みを計画している。一筆書きで館内を一周することで、様々な角度から紫電改を鑑賞することができ、紫電改について深く知ることができる計画を考えている。

○事務局から今後の予定について以下のとおり説明した。

- ・紫電改展示館のリニューアル事業については、今年度、造成工事と実機調査、移設用架台の設計業務を実施する予定。
- ・建屋新築工事は、令和7年度着工、令和8年度完成予定。
- ・実機の移設は令和8年度の実施を予定している。

## 7 委員会での主な意見

- 見直した外構計画の乗降スペースは乗用車を想定しているため、今後、奥の北側スペースを計画する際には、バスの回転場所を設けて、建屋の北側でもバスから乗り降り可能な計画を検討してほしい。
- 健全者でなければ使いづらいという条件下の施設を作るのではなく、デザインを優先することは、当たり前な条件を確保することを含めた上で考えるということが現段階の課題であると捉え、引き続き検討をお願いしたい。
- 入館料を徴収するかは未定だと聞いているが、地元の小学生は無料招待としたり、シルバーの人には特別料金とするなど、地元の人が行きやすい施設にしていきたい。
- リニューアル後、しばらく展示は変えることはないということで、他の県立美術館や博物館ほどは運営にお金はかからないという前提となるが、例えば、広島の平和記念資料館は大人200円、高校生100円、ただし20人以上の団体は無料、中学生以下無料という料金設定になっている。平和学習という学習的な側面を考えると、なるべく中学生以下、年齢のくくりを設けた上で、敷居を高くしないような工夫が必要かと思う。紫電改展示館が博物館に準ずる施設として、なるべく誰もが来やすく且つ最低限運営維持していくための費用として入館料が必要だとしても、なるべく学習者の子どもたちに対しては来やすいような環境を整えることが必要ではないか。
- 今後の物価上昇や少子高齢化を考えると、施設を運営していくためには入館料は必要であると思う。これは、ある種、価値の転換という捉え方をしたいというのが一つ。もちろん、全員から入館料を取るということではなく、様々なことを考慮して、より深い議論が必要であると思う。
- 愛媛県の南予地方に、このシステムが必要かは検討しなければならないが、今、大都市圏のほとんどの博物館、美術館は事前予約制となっている。
- スマートフォンを使ったオーディオガイドで解説をする場合、遠足や修学旅行で子ども達を連れて行った時、どう活用するのか検討が必要。現在の学校現場では一人一台端末があるが、団体の子ども達へのサービスについては活用方法など検討が必要。
- 展示内容について、限られたスペースの中でも深みや正確性は追及していくべきだと思う。
- 建物の大きさもあり受け入れられる人数には限界があるが、その点は、運営の工夫や、地域のプレイヤーの方々との連携で対応ができると思う。愛媛県の観光部局の方が商談会へ行って営業するなど、他部局との連携が必要だと思う。
- 地元ガイドの育成も大事であり、今回をきっかけに地域でも機運を高めてもらう必要がある。一組織だけが動いても無理な部分があり、連携することが大切。

- 今回のリニューアルの要は、やはり「平和学習の場を作る」ことだと思う。教科書にある戦争の歴史と対応させながら、戦争のリアリティを実機や資料から肌で感じてもらうということが重要になってくると思う。
- 実機という資料を後世に残していくことと、平和学習の材料を提供することが我々の任務として非常に重要だと思う。
- 平和の大切さを心に宿して、いろいろな想いが集められる場所になっていければいいと思う。
- 紫電改が久良湾に沈むのを見た人、長い間、静かに守ってきた人、それを引き揚げようと関わった人、引き揚げられたところを目撃した人など、地元の者にとって、紫電改は誰でも心の中にはあるもの。
- 見る側のための博物館、展示施設を作っているのではなく、展示施設をきっかけとして人々が交流し重なり合い、そして伝え合う。その結果、子どもたち、未来の社会を背負う人々に対して思いを繋げることとなると思う。
- 戦争は、本来なければよかったが、起こってしまった事実は消せない。これからの未来を作るために、それが負の遺産ではなく、私たちが繋がりあい、新たな社会を作るためのコミュニケーションを繋げていける場になっていけるように出来れば、より良くなっていくのかなと思う。

〔整備検討委員会事務局〕  
土木部道路都市局  
都市整備課公園緑地係  
電話 089-912-2749  
FAX 089-912-2744